



診察室

から @埼玉

子育ての悩み

親のSOSにこそ耳傾ける

私たちの外来は三つの専門外来で構成されています。自閉症や注意欠如・多動性障害（ADHD）、学習障害などの「発達外来」、不登校や摂食障害などの「小児心身症外来」、てんかん、脳性まひ、筋ジストロフィーなどの「小児神経外来」です。それぞれ全く違う特徴を持つ子どもたちの診療なので、診療内容もおのずと異なります。ただ、共通部分もあります。子どもの診察にあてる時間より、親など養育者と話をする時間が長くなることが多いことです。

たとえば、ADHDで知的遅れのない自閉症スペクトラム障害を併せ持つ小学3年の男の子ですが、学校で友達とけんかが絶えず、気に入らない授業だと教室から出て行ってしまします。家では、母親が宿題をするよう促してもゲームをやめられず、最後は逆ギレするのです。親子で来院しましたが、父親はほとんど話さず、一方的に母親が息子の問題点を語ります。同席している男の子は嫌そうな表情をします。母親はそんなことは気にせず、息子の駄目なところを話し続けます。さらには、息子の問題行動時にいちいち電話をしてくる担任への不満、子育てに全く協力しなかった夫への不満も語りま

す。父親は仕事が忙しく、子どものことは全て母親任せでした。母親はとにかく子どもの問題をだれかに聞いてほしかったのです。母親も働いていて大変なのに、学校で問題が起きるたびに謝りに行くのは母親ばかりで、疲れ果てていたのです。

この家族のように、母親の子育ての頑張りが空回りをする、自信が持てなくなりますが、最近では母子家庭も増えてあります。家族への支援が必要ですが、限られた診療時間ですが、私も親の話にできるだけ耳を傾けるようにしています。ただ、それだけでは不十分なので、関係者が連携し、心理士による親のカウンセリングや、保健師による家庭訪問など、きめ細かい対応を行っています。

独協医大越谷病院
子どもこころ診療センター
教授 作田亮一